

# 広報家畜衛生

平成27年12月10日 発行  
 徳島家畜保健衛生所  
 〒770-0045 徳島市南庄町5丁目  
 TEL 088-631-8950 FAX 088-631-8938  
 阿南支所  
 〒774-0013 阿南市日開野町谷田  
 TEL 0884-22-0304 FAX 0884-22-2225

**沖縄県及び鹿児島県で牛流行熱の発生、兵庫県ではイバラキ病を疑う疾病が発生しました。**

## 1. 牛流行熱の発生状況

今年の9月上旬から10月上旬にかけて、沖縄県及び鹿児島県において、牛流行熱の発生がありました。

発生地名	発生状況			発症	症状	診断	備考	
鹿児島県 ※	1	肉用繁殖	1戸1頭	黒毛和種成牛	10/5~	食欲不振、起立意欲低下、水様性鼻汁	RT-PCR 中和試験	同居牛に類似症状あり
	2	肉用繁殖	1戸1頭	黒毛和種成牛	10/7~	食欲不振、軽度流涎、水様性鼻汁	RT-PCR 中和試験	
	3	肉用繁殖	1戸6頭	黒毛和種繁殖牛5 育成牛1	8/7~	発熱、元気消失、食欲不振等	RT-PCR 中和試験	
	4	肉用繁殖	1戸2頭	黒毛和種繁殖牛2	9/7~	発熱、元気消失、食欲不振等	RT-PCR 中和試験	
	5	肉用繁殖	1戸5頭	黒毛和種繁殖牛5	9/22~	発熱、元気消失、食欲不振等	RT-PCR 中和試験	
	6	肉用繁殖	1戸1頭	黒毛和種繁殖牛	10/6~	発熱、元気消失、食欲不振等	RT-PCR 中和試験	
沖縄県	1	肉用繁殖	3戸4頭	黒毛和種繁殖牛4	9/15~	発熱、起立困難、跛行	RT-PCR 中和試験	

今回の発生事例は、全て黒毛和種での発生であり、比較的小規模にとどまっています。

しかし、海外では同じタイプのウイルス株により大規模な流行となり、乳用牛で発症牛のうち10%が死亡した事例の報告があります。

過去には沖縄・九州のほか、中国・四国地方でも発生したことがありますが、その後24年間、九州以北では発生がないことから、ワクチンは低い接種率となっているのが現状です。

### 【豆知識】 牛流行熱とは・・・



- 原因**  
牛流行熱ウイルス
- 疫学**  
日本、台湾、中国、韓国、インドネシアなど熱帯～温帯にかけて、牛や水牛に発生がみられます。  
ウイルスは、アカバネ病と同様、蚊やヌカカによって媒介されるため、発生には季節性（主に8月～11月）があります。  
我が国では、主に西日本において周期的な流行を繰り返してきました。近年では流行が限局的であり、頻度も少なく、2001年2004年に沖縄で発生がみられたほかは、九州以北では24年間発生がなかったところです。  
発症率は一定でなく、数%～100%と幅があり、死亡率は1%以下です。接触感染はありません。
- 症状**  
発症牛では、突発的な発熱（41～42℃）がみられますが、多くはその後1～2日程度で回復します。  
また、元気消失、食欲低下、呼吸速迫、流涙、流涎、四肢の関節痛や浮腫による歩行困難、起立不能、筋肉の振戦、反芻停止、乳量低下ないし泌乳停止などの症状を呈しますが、解熱に伴って回復します。
- 予防**  
ワクチン接種（通常、7月末までに完了させる）  
①不活化ワクチン 3～4週間間隔で2回接種  
②生ワクチンと不活化ワクチンの併用（LK方式）  
生ワクチン皮下注射→1ヶ月後不活化ワクチン筋肉注射
- 治療**  
対症療法のみ

## 2. イバラキ病を疑う疾病の発生について

今年の10月下旬から今月にかけて、兵庫県においてイバラキ病を疑う症状を呈する牛が確認されています。

肉用牛（繁殖用）	30戸36頭
乳用牛	3戸 6頭

現在、兵庫県以外ではこのような事例の報告はありませんが、今後、このような症状を呈する牛が見つかった場合は、早急に家畜保健衛生所に御連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

### 【豆知識】 イバラキ病とは・・・

#### 1. 原因

イバラキウイルス



#### 2. 疫学

ウイルスは吸血昆虫（主に体長1～3mmほどのヌカカ）によって媒介され、牛、水牛に伝播します。ウイルスの流行には季節性（夏～秋）があり、発生地域は関東地方以南に限られています。牛から牛への接触感染はありません。

#### 3. 症状

軽度の発熱とともに、食欲不振、流涙、結膜充血・浮腫、泡沫性流涎、鼻腔・口腔粘膜の充血・鬱血・潰瘍、蹄冠部の腫脹・潰瘍、跛行等がみられます。その後、発症牛の約5%に食道麻痺・咽喉頭麻痺・舌麻痺による嚥下障害が発生します。1997年には、これらイバラキ病の典型的症状に加えて死流産もみられました。

#### 4. 予防

生ワクチンあるいは不活化ワクチンの接種（ウイルス流行期前に完了する）により予防できます。

#### 5. 治療

対症療法のみ

## 3. 県内アルボウイルス感染症のサーベイランスについて

※アルボウイルスとは、蚊、ヌカカ及びダニなどの節足動物を介して脊椎動物に伝播（でんぱ）するウイルスの総称です。

徳島県では、毎年アルボウイルス感染症のうち、アカバネ病、牛流行熱、イバラキ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病について、6月、8月、9月、11月の4回、抗体検査によるサーベイランスを実施しています。

今年度の抗体検査の結果では、抗体の上昇は見られず、今のところ、県内でこれらウイルスは動いていないと判断しています。

## 4. ワクチンについて

牛流行熱及びイバラキ病は、海外の常在地から、ウイルスを持った蚊やヌカカが風に乗って飛来することによって国内に侵入し、これらが牛を吸血することによって感染が起こります。

近年、温暖化の影響もあり、冬期でも全く蚊がいない訳ではありません。

畜産協会の自衛防疫事業において、牛流行熱及びイバラキ病のワクチンも対応可能ですので、発生予防のために御検討ください。

飼っている牛が、  
「何かいつもと違う!! 気になる!!」  
場合は、家畜保健衛生所にご相談  
ください。

### < 連絡先 >

徳島家畜保健衛生所 088-631-8950  
阿南支所 0884-22-0304

家畜保健衛生所は、休日・夜間も24時間対応しております。